

# 月刊しばうら

## 2015年 6月号

### 大動物事業部

#### < 4月の相場動向 >

和牛は、年明けに出荷頭数減の影響により価格が急騰し、異常なまでの高値相場となり、2・3月と徐々に下げの相場展開となったが4月の牛枝肉相場は、各規格全てにおいて上昇。和牛去勢A5が前月比68円高、同A4が92円高、同A3が78円高、同A2が77円高であった。交雑種・乳去勢牛も同様に上昇し、和牛の価格に比べ割安感のあるものへの流れは変わらず、2月以降、右肩上がりの相場展開となっている。全国的に市場出回り頭数が少ない中で、大型連休需要と相まって各品種・規格で一段高の相場展開となった。例年4月は3月に比べ各規格で50~100円上昇するが、価格水準は違うものの、今回も例年通りの推移となった。

#### < 4月牛枝肉月間価格 >

和牛去勢	前年同月比	前月比
A5 2,480円	102.8%	112.0%
A4 2,311円	104.1%	121.8%
A3 2,165円	103.7%	126.1%
A2 2,019円	104.0%	128.6%
交雑去勢		
B4 1,700円	103.0%	122.3%
B3 1,619円	103.5%	127.4%
B2 1,525円	104.2%	130.1%
乳牛去勢		
B3 上場なし		
B2 940円	88.7%	114.5%

#### < 6月の牛肉輸入量予測 >

財務省の貿易統計によると、3月の輸入牛肉通関量は3万5,128t(前年同月比4.7%減)と4ヵ月連続の3万t台となり、前年をも下回った。内訳は、チルドが1万7,173t(同4.5%増)で、フローズンが1万7,955t(同12.0%減)であった。国別にみると、豪州産が1万8,158t(同3.6%減)でうちチルドが1万439t(同5.4%増)、フローズンは7,719t(同13.5%減)、米国産は1万3,331t(同10.2%減)でうちチルドが5,775t(同0.1%減)フローズンは7,556t(同16.6%減)となった。チルドは豪州産が増加し、米国産も2月20日に西海岸の労使交渉問題について暫定合意なされたことなどから、ほぼ前年並の輸入量となったことで全体的に増加。フローズンは市中在庫が多いことや、豪州産は2月に続き4月からの関税引下げを見込んで通関を控えており、米国産も現地相場高の影響などで全体でも2桁減となった。

農畜産業振興機構の輸入予測によると、6月の輸入量は4万1,700t(同5.7%減)でうちチルドが1万6,800t(同8.0%減)、フローズンが2万4,800t(同3.8%減)と予測している。

#### < 6月の全国出荷頭数予測 >

家畜改良センターがまとめた牛個体識別記録によると平成27年4月末現在の総飼養頭数は384万4,731頭(前年比2.2%減)で、7ヵ月連続で390万頭割れとなり調査開始以来の最低となっている。和牛・交雑・乳牛去勢などの肉用牛については、244万7,632頭(前年同月比2.4%減)となり約6万1,000頭の減少となった。交雑種だけは前年を上

回り、和牛・乳牛は減少、特に乳牛去勢は平成23年秋口から40万頭を下回り、33万2,539頭と調査公表以来の最低値を更新した。

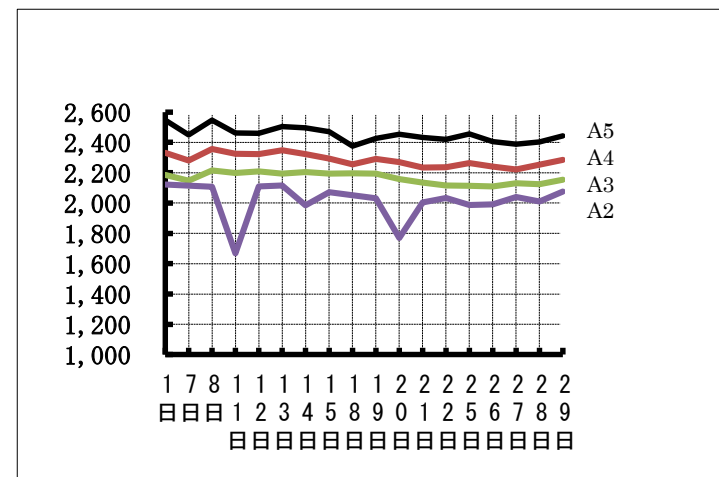
農林水産省が発表した食肉流通統計によると、3月の全国と畜頭数は成牛が9万1,629頭で(前年同月比0.4%増)だった。内訳は、和牛が3万8,273頭(同1.3%減)で交雑種が1万9,215頭(同0.2%増)、乳牛去勢は1万7,718頭(同0.4%増)、乳牛牝は1万5,236頭(同4.5%増)であった。前年比では、と畜稼働日が前年に比べ2日多かったために減少幅が小さいが、平年比でみると成牛合計では4.3%減、和牛で5.6%減、交雑種で3.8%減、乳牛で3.0%減となっている。東京食肉市場の6月と畜予定頭数は、22日稼働で7,800頭を予定している。

#### < 6月の牛枝肉価格予想 >

牛肉価格が上昇し牛肉の消費離れも懸念される中、5月の大型連休期間中の牛肉需要は天候にも恵まれ堅調な展開を見せたようだ。6月の牛枝肉相場は、例年5月に比べ一段下げの相場展開となるが、今年は例年とは違った動きをすると思われる。引き続き全国的な出荷頭数が少ない状況であり荷不足感から高止まりする可能性を含んでいる。しかし、梅雨時に向かって需要の落ち込む時期でもあり、5月に比べるとやや中だるみ感があると思われるが、末端需要の動きは引き続きやすい商材への需要は強く、和牛・交雑種ともに2・3等級が安定した取引になると思われる。上物規格については厳しい展開が予測されるが、中旬以降からギフト等の発注が動き始めることから、銘柄牛や産地により相場回復の兆しも見えてくるとと思われる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,400~2,450	B4	1,600~1,650
A4	2,200~2,250	B3	1,500~1,600
A3	2,000~2,100	B2	1,450~1,500
A2	1,900~1,950		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	950~1,050		

#### 和牛去勢日別相場表 (5月度)



### 小動物事業部

農林水産省が発表した食肉流通統計によると、4月の全国と畜は136万9,561頭(前年同月比98.6%)となり前年より減少した。

一方、4月分の豚肉通関実績は、総量で7万3,154t(前年同月比100.5%)とほぼ前年並みであった。うちチルドが2万7,920t(同99.4%)と減少した。国別輸入量は米国が1万5,985t(同86.0%)と大幅減、カナダは1万525t(同122.2%)、メキシコが1,407t(同157.6%)と大幅増となった。フローズンは4万5,234t(同101.2%)と前年を上回った。国別輸入量はデンマークが9,740t(同73.9%)、米国が9,325t(同129.3%)、カナダが4,614t(同134.6%)、メキシコが3,680t(同84.1%)であった。

#### < 5月の豚取引の推移 >

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	70,100	524	484	1,309
2日	-	499	455	1,031
8日	71,600	532	497	1,175
9日	-	535	517	1,009

GW前後の全国と畜頭数は7万頭を超えた。当市場の上場頭数も1,000頭を超える上場頭数が続いた。

今年のGWは全国的に気温も高く、天候に恵まれたが、輸入品が比較的潤沢なため、バラ、カタロースと中間部位の荷動きは鈍かった。当市場の上物価格も2日には500円を割り、GW前後も500円前半と550円で下回る価格で推移した。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	64,400	546	513	1,056
13日	59,600	560	521	738
14日	62,200	526	507	873
15日	63,700	539	494	806
18日	61,800	522	498	803
19日	62,700	535	496	807
20日	55,200	544	504	719
21日	63,200	522	488	730
22日	63,500	523	491	989

中旬の全国と畜頭数も前年同時期と変わらず、平均6万頭前半であった。当市場は、平均で830頭の上場となり前年とほぼ変わらない頭数であった。

枝肉相場は出荷頭数の少ない状況が続いたが、国産、輸入品ともに引き続き全体的な動きはいまひとつで、バラなどの中間部位の荷動きは鈍い。今後、気温の上昇と共に焼き材需要が期待されるが、現状ではそれほどの動きがなく520~560円の推移となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
25日	59,400	508	482	839
26日	59,800	521	490	945
27日	57,700	518	485	627
28日	59,800	503	481	712
29日	60,700	534	500	774

下旬の全国と畜頭数は6万頭を割り込み前年並みであった。引き続き、国産品のバラ中心に荷動きは今一つであった。また輸入品も各社輸入を絞っているが、全体的な荷動きも鈍く上物価格500~530円の推移となった。

#### < 6月の豚枝肉相場見通し >

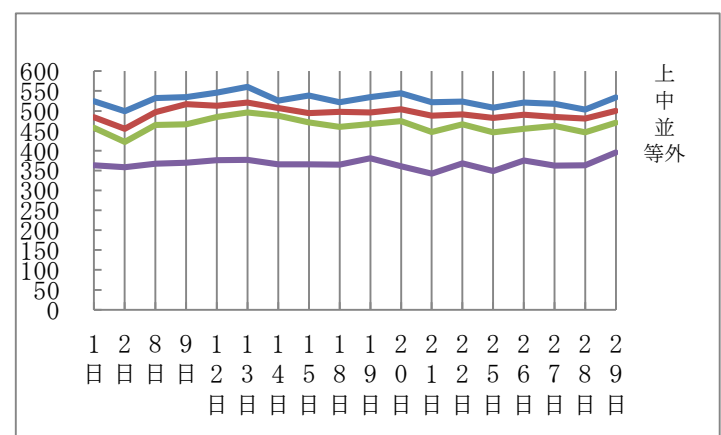
農林水産省による6月の全国と畜頭数は、125万6,000頭(前年同月比101.0%)と予測しており一日当たりの頭数は

約5万7,000頭である。当市場の6月の集荷予定頭数は約1万6,500頭となっており、一日当たりでは約750頭を見込んでいる。

一方、農畜産業振興機構による6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で5万8,400t(前年同月比88.2%)の予測となっている。内訳はチルドが2万3,300t(同106.8%)、フローズンは3万5,100t(同79.0%)の予測である。また3月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万6,667t(前年同月比76.3%)、輸入は16万1,927t(同115.3%)となり合計17万8,594t(同110.0%)となった。推定出回り量は14万710t(前年比104.0%)で、3ヵ月ぶりに前年を上回った。うち国産品は7万5,902t(同101.2%)輸入品は6万4,858t(同107.4%)でともに前年を上回った。国内生産量は7万4,713t(同99.6%)と6ヵ月連続で前年を下回り、輸入量は6万5,345t(同105.5%)と5ヵ月ぶりに前年を上回った。

6月は梅雨時期に入り消費は落ち込むが、一方、供給は昨年引き続きPEDの影響で低い水準であると、豚肉輸入見込数量も減少予測となっていることから引き続きタイトな状況は変わらないだろう。よって、6月の加重平均は上物580円前後、中物560円前後と予測する。

#### 豚日別相場表 (5月度)



**出荷者の皆様へ**  
PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。  
来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

**東京都港区港南2-7-19**  
**東京食肉市場株式会社**  
**TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127**  
**URL <http://www.tmmc.co.jp/>**